

令和7年1月6日

西部農林水産振興センター益田事務所農業部

標 題	金融機関から見た農業経営のポイントを学びました
-----	-------------------------

(ダイジェスト)

認定新規就農者や農業研修生を対象に、資金調達についての研修会を開催しました。日本政策金融公庫やローンセンターの担当者の話を直接聞く機会を設けることで、資金を貸す側の視点を知るとともに、“もの”を作ることだけではなく“経営”することの重要性を伝えることができました。

益田市には、メロンやぶどうで多くの新規就農者や農業研修生がいますが、資材価格高騰の影響もあり、就農時には各種資金を借り入れる事例が増えています。そのため、資金調達を円滑に進めるために、金融機関がどのような視点で農業経営を見ているのかを理解する必要があります。

そこで、資金の借入に関する研修会を計画したところ、益田市内の認定新規就農者6名、農業研修生6名の参加がありました。当日は日本政策金融公庫とローンセンター（JAしまね西いわみ地区本部）の担当者を講師に招き、融資相談から貸付決定までのポイントとして、決算書やヒアリングを通してどのように判断しているのか説明していただきました。

参加者からは、「生産だけではなく経営とのバランスを意識したい」「公庫側、お金を貸す側の目線を知ることができて良かった」等の感想があり、栽培技術面だけではなく経営的な視点の大切さが伝わったようでした。

また、講演終了後には、4名が講師や市の新規就農担当者と個別相談をしており、資金調達等のアドバイスを受けました。

研修会後のアンケートでは、農業簿記やそれを踏まえた経営の振り返り方を取り上げてほしいという意見もあったことから、今後の研修の参考とし、経営感覚に優れた担い手の育成に努めます。

